

令和6年6月30日

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」
第90回（通算第169回）定例会 会議録

◆日時：令和6年6月18日（火） PM7：05～8：15
◆場所：田辺市医師会館 3F 大講堂
◆出席者： 18名 + オンライン1名
別紙のとおり

1. 「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：05～20：15】

19：05～ 開 会

19：05～19：25 研 修

「痙縮に対するボツリヌス療法」

講師：グラクソ・スミスクライン株式会社
松下 健一氏

19：25～20：00 意見交換

20：00～20：15 発 表

20：15 閉 会

【講義内容】

●ボツリヌス療法

- ・脳卒中の後遺症である、手足のつっぱり（痙縮）の治療の一つとして、ボツリヌス療法がある。
- ・ボツリヌス療法とは、ボツリヌス菌が作り出す天然のたんぱく質（ボツリヌストキシン）を有効成分とする薬を筋肉内に注射する療法
- ・ボツリヌストキシンには、筋肉を緊張させている神経の働きを抑える作用があるので、注射をすると、筋肉の緊張をやわらげることができる。
- ・ボツリヌス療法は一定の講習を受けた医師のみが実施できる

●ボツリヌス療法

- ・ボツリヌス療法の効果
 - 手足の筋肉が柔らかくなり、動かしやすくなることで日常生活が行いやすくなる
 - リハビリを行いやすくなる
 - 関節の拘縮予防
 - 手足のつっぱりによる痛みがやわらぐ
 - 介護の負担が軽くなる
- ・副作用もある
- ・ボツリヌス療法における療法士の役割
 - 医療と介護の枠を超えた双方向性のコミュニケーションが重要
 - 医療側：医師による評価
 - 診察室での評価や基本動作の評価、介護側の情報は問診からの評価
 - 介護側：介護保険等がかかわる療法士の評価
 - 自宅や生活環境での評価、ADLやIADLの評価、介護状況を実際に評価
- ・医療機関の医療者だけでなく、在宅側の支援者にも理解をしてもらって、お互いに連携をしていくことが重要。

【意見交換】

○質問・意見

- ・ボツリヌス療法の講習を受けた医師はどうやって調べたらいいのか
 - インターネットで「He1C（ヘルシー）」で検索を。
- ・ボツリヌス療法の講習はどのようなものか
 - eラーニングで120分+試験。多くの医師に受けてもらいたい。医療職や介護職から医師にも伝えてもらいたい。
- ・ボツリヌス療法を行ったあとリハビリをするのは効果的なのか
 - 接刺部位はあまり揉まないようには説明しているが、打ってすぐに動かしたほうが筋緊張を抑えられるという話もある。
- ・トリガーポイントにどのように接種するのか？
 - 一番固まっているところをえこーでみてやっている。
- ・二次障害が起こる前のタイミングがむずかしい
- ・病院で実施した事例発表の報告例はあるのか
 - 講演会やWebでの報告事例がある
- ・施設入所者での実践例はあるのか
 - 包括診療の中ではむずかしい
- ・コストに見合った効果はあるのか
 - 50単位で薬価が3万円。確かに高いので、医療費の助成制度を利用できるような人や経済的に余裕のある人が中心にはなる。
- ・主治医と相談するのはハードルが高いが、お互いに情報共有するのは必要だと思う
 - 声を出していかないと進んでいかないので、がんばっていきたい
 - 医療職・介護職・医師・製薬会社などの連携が重要。

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。

日時：令和6年7月16日（火） 午後7時～

場所：田辺市医師会館 3F 大講堂

講師：株式会社 ヤマシタ